

国立

国会

図書館

月報

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2017.9/10

関西館15周年

けいはんな学研都市と関西館の過去・現在・未来
関西館 A to Z

資料の世界の歩き方 中世の古文書を読んでみよう④
真つ黒な紙は「天皇文書」のトレードマーク!?



国立国会図書館 月報

NO. 677 / 678
SEPTEMBER / OCTOBER
2017
CONTENTS

- 1 資料継承のつのかたち
— 勝海舟関係文書のなかの誠齋雑記 —
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 関西館15周年
6 けいはんな学研都市と関西館の
過去・現在・未来
14 関西館 A to Z
- 23 館内スコープ
「下!」「右、と左?」「上、かなあ...」
- 24 資料の世界の歩き方 中世の古文書を読んでみよう④
真つ黒な紙は「天皇文書」の
トレードマーク!?
- 28 国立国会図書館平成29年度企画展示
挿絵の世界
- 30 本屋にない本
なぜなぞ? ことばあそび!!
江戸の判じ絵と練馬の地口絵
- 31 NDL Topics

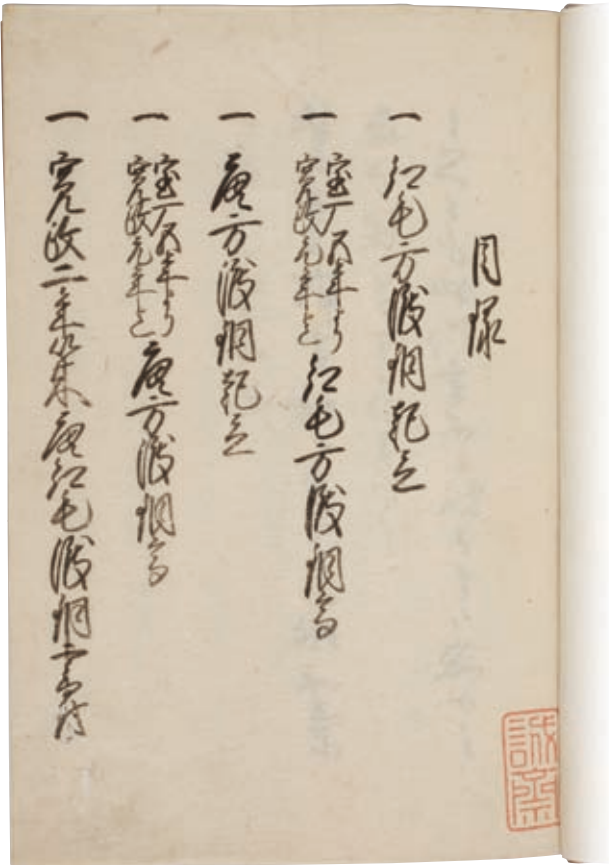


表紙：
「石積む舟（房州）」
川瀬巴水 画 [渡辺版画店] 大正9(1920) 1枚 39×27cm
（『旅みやげ 第1集』<請求記号 寄別 7-3-1-3>所収）
「国立国会図書館デジタルコレクション」でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592072/1>

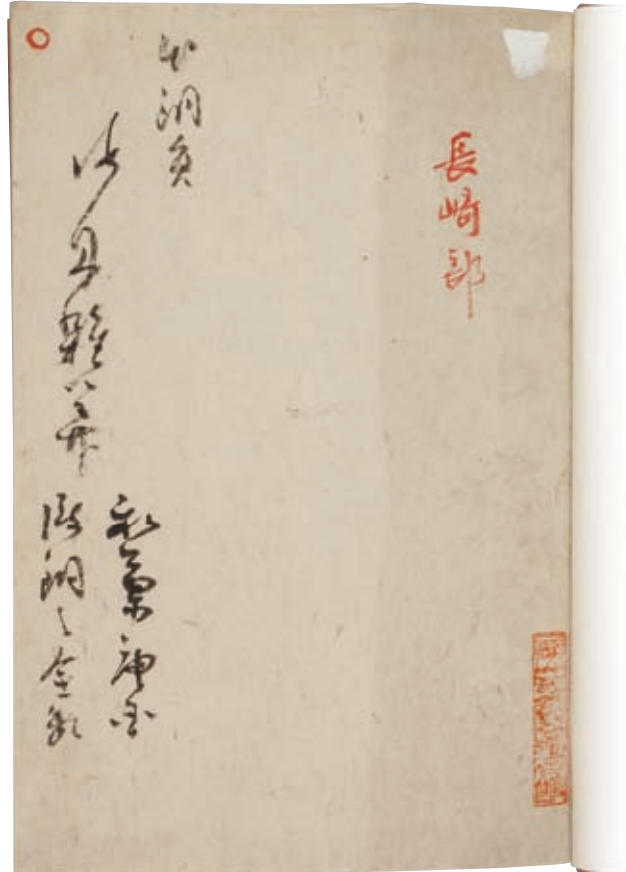
資料継承の一つのかたち

—勝海舟関係文書のなかの誠齋雑記—

かわむら ますみ
河村 真澄



本文

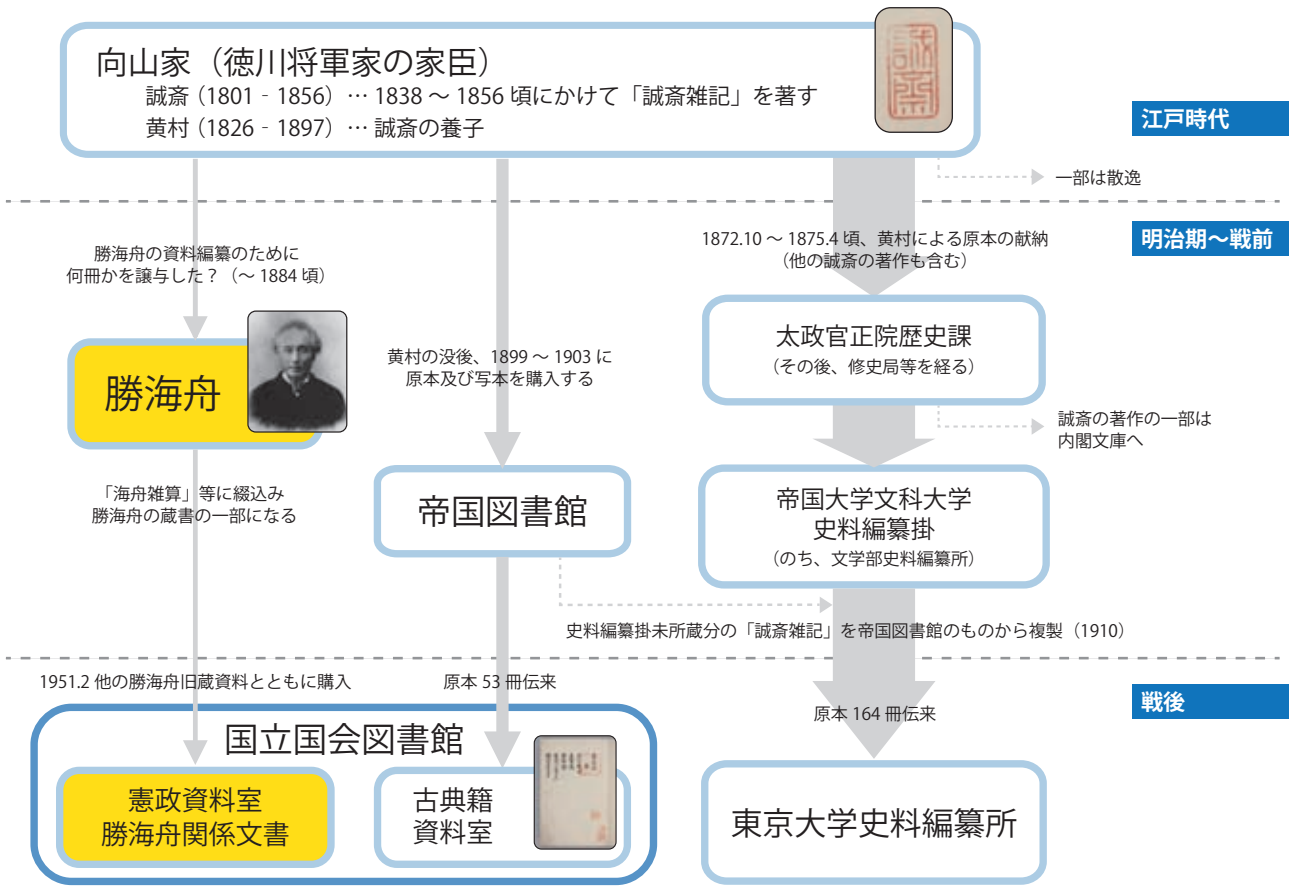


原表紙

海舟雑算 五 <請求記号 勝海舟関係文書 16-5 >
* 東京本館憲政資料室所蔵

勝海舟（一八二三・一八九九）といえ
ば、太平洋横断を行った咸臨丸に艦
長として乗船し、戊辰戦争では西郷
隆盛と会談して江戸城を無血開城に
導いたことで有名な人物である。当
館憲政資料室には、その海舟が伝え
た当時の政務資料や書籍などが、勝
海舟関係文書として遺されている。
今回取り上げるのは、同文書に含
まれる「海舟雑算」という資料であ
る。これは全六巻の和装本で、江戸
時代の財政関係資料を海舟が収集編
纂した、謂うなれば歴史資料集であ
る。このうち第五巻には、主に長崎
貿易における銅取引に関する統計資
料などが収められている。だが、海
舟の手になるとされる原表紙（写真
右）の筆跡と比べると、端正に書か
れた本文（写真左）の方は筆者が明
らかに異なる¹。加えて本文料紙右下
には、「誠齋」という印影も確認で
きる。この第五巻本文、実は、海舟
の手によって記されたものではな
く、元来は向山誠齋^{むこうやませいざい}という幕臣に
よって編まれた「誠齋雑記」という
別の資料集の一部をなすものであつ

「誠齋雜記」の伝来経路（概略）



た。それを海舟が「海舟雑算」の一部として繰り込んだのである。この「誠齋雜記」を編んだ向山誠齋（二八〇一・一八五六）は、徳川幕府で奥右筆や勘定組頭を歴任した旗本である。奥右筆に就いた天保九年（二八三〇）頃から、政務に関わる文書や書籍等を筆写あるいは収集し、没する安政三年（二八五〇）までの間に、二百数十巻にも及ぶとみられる資料集「誠齋雜記」を編纂した。

だが、誠齋自筆の「誠齋雜記」原本は、明治期に入って複数の所蔵者によって分蔵されることになる（上図）。そのうち大部分は現在の東京大学史料編纂所に伝わり、計一六四冊を数える。これに次ぐのが、明治三六年（一九〇三）に原本計五三冊を購入、所蔵した帝国図書館であり、現在、国立国会図書館古典籍資料室に伝わるものが、その時に購入したものである。しかし、両者を併せてもなお欠落した巻号があり、それらの多くは離散してしまったとみられている。

さて、冒頭で触れた「海舟雑算」第五巻は、そうした離散した「誠齋

雑記」の一部が別の資料集の一部に姿を変え、今に伝わった稀有な例である。

勝海舟もまた誠齋と同様に、幕末以来、幕政に関わる資料、特に財政経済に関わる資料を継続的に収集整理していた。ただ、幕府財政の当事者でなかった海舟にとって、資料収集の頼みといえば旧幕臣とのコネクションであった。誠齋の子黄村も父と同様に幕府において要職を歴任し、かねてから海舟と相識の間柄にあったので、そうしたことから「誠齋雜記」の一部が海舟の手許に渡ったと見られている。明治十七年（二八八四）頃に至り、海舟は蓄積した資料のうち財政関係資料の幾つかを「海舟雑算」として編綴するのだが、このときに海舟による各方面からの収集資料の一部として「誠齋雜記」が綴じ込まれたのであった。

そして、海舟の手許に渡った「誠齋雜記」はこの一点に限らないようである。勝海舟関係文書を瞥見した限り、「誠齋雜記」の一部だと思われる資料が他にも五点確認できる（左ページ写真、表）。一部は「海舟雑



「誠齋雜記」の小口書。部分的に綴じられたためか、見切れているものも。



表：勝海舟関係文書中でもとは「誠齋雜記」の一部であったと見られる資料

勝海舟関係文書資料番号	タイトル	「誠齋」印	小口書の記載	備考
16 - 5	海舟雑算 五	○	甲辰十三	
19	経済雑算 海舟翁稿本	×	乙巳廿八カ (文字の下半分は見切れ)	誠齋自筆部分は「諸国人数調」が収載される。
96	崎陽便覧 向山誠齋自筆写本	×	乙巳廿三 (文字の下半分は見切れ)	「向山蘆余一得中ノモノナラン」との朱書きがある。
97	丁未雑記 (心療類編)	×	丁未十三	偶堂蔵罫紙。表紙に「向山」との朱書きがある。
100	東海道便覧	○	甲辰廿一	「向山ノ蘆余一得中ノモノナラン」との朱書きがある。
109	地方御勘定帳	○	丙午廿八	

※「蘆余一得」は向山誠齋の著書の一つ。国立公文書館内閣文庫に伝わる。ただし、国立公文書館所蔵の「蘆余一得」とは小口書の記載が異なる。
 ※勝海舟関係文書中には、ここに列挙したものを以外にも向山誠齋自筆とみられる資料の断片が数多く確認できる。

- 1 現在は、勝海舟によって付されたとされる原表紙に加え、後代のものとみられる赤茶色の表紙が付けられている。
- 2 各冊子には「甲辰雑記」「己酉雑綴」等の題が付されているが、向山誠齋によるそれら一連の雑記および雑綴は「誠齋雑記」と総称されることがある。本稿でもこれに倣い、「誠齋雑記」と表現している。
- 3 東京大学史料編纂所所蔵の原本は、誠齋の子黄村から太政官正院歴史課に献納され、その後、修史局等を経て史料編纂所に伝わったことが蔵書印から判っている。また、黄村から献納された誠齋の著書の一部は内閣文庫にも引き継がれた。
- 4 誠齋自筆原本とは別に、明治32年(1899)から35年(1902)にかけて購入した写本164冊(65冊に合本)が伝わる。写本の作製時期は不明だが、範囲は史料編纂所所蔵の原本とほぼ重なる。原本・写本ともに古典籍資料室所蔵「誠齋雑記及雑綴」〈請求記号237-36〉
- 5 東京大学史料編纂所所蔵「癸卯雑記」十三

【参考文献】

針谷武志「解説」(向山誠齋[編著];大口勇次郎 監修;針谷武志 編集・解説『向山誠齋雑記。天保・弘化篇 第26巻』ゆまに書房,2004)
 大口勇次郎「解題」(勝部真長,松本三之介,大口勇次郎 編『勝海舟全集。6(吹塵録1)』勁草書房,1974)
 松浦玲「解題」『勝海舟全集。3(吹塵録1)』講談社,1976

勝海舟文書中の その他の「誠齋雑記」

これらも誠齋の筆跡で記され、多くは「誠齋」印が捺されるか、または「偶堂蔵」(偶堂は誠齋の別号)という柱刻の入った誠齋の用箋が用いられるといった、他の「誠齋雑記」と同様の特徴が認められる。加えて、いずれも小口書には「誠齋雑記」の巻号とみられる墨跡がある。

「算」に含まれるものと同様に分割合綴されて原形が損なわれていたものもあるが、いずれも従来は「誠齋雑記」の欠本だとされてきた巻号であるとみられ、これらはその部分を補うものである。

ところで、他人の編著書を自らの資料集に組み込んでしまうという点では、向山誠齋も同様であった。例えば本多利明(一七四三・一八二〇)といえ、『経世秘策』等を著し、重

な経世家である。その利明自筆による著書「赤夷動静」が、天保十四年(二八四三)の「誠齋雑記」に合綴されているという。海舟や誠齋のこれらの行為は現代の感覚からしてみれば何とも大胆であるが、さもなくばそれら貴重な資料は既に失われてしまっていたかもしれない。かくして別人の手になる書物に織り込まれ、そして後代に継承された昔日の典籍が、思いがけず現代に目の目を見ることもあるのである。

関西館 15周年

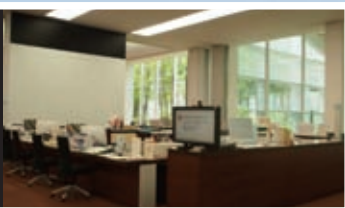
2002年に開館した国立国会図書館関西館は、今年10月に開館15周年を迎えます。

今回の特集では、今まであまり語られてこなかった、関西館の位置する「けいはんな学研都市」について、また、関西館のもつ多彩な側面に光をあて、知られざる魅力をお届けします。

ヘビーユーザーの方も、むかし一度足を運んだだけの方も、きっと新しい発見があるはずです。



関西館シンボルマーク



けいはんな学研都市と関西館の
過去・現在・未来

p.6

関西館 A to Z

p.14

けいはんな学研都市と関西館の

過去・現在・未来

国立国会図書館関西館は、関西文化学術研究都市（愛称「けいはんな学研都市」）に位置しています。国立国会図書館の「遠隔サービスの拠点」としての役割を果たすと同時に、近年、地域に根ざした活動を広げつつあります。

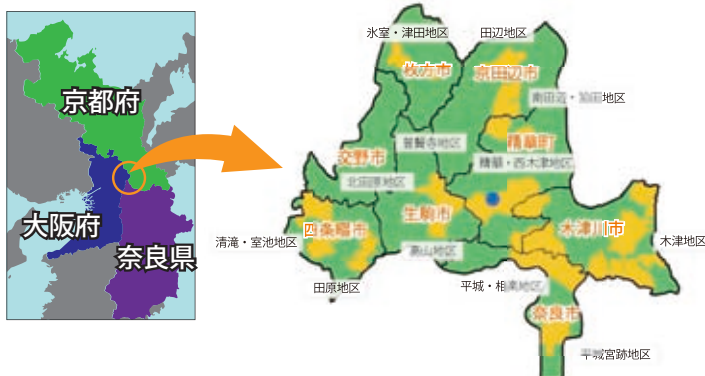
6月中旬、関西館の近隣の機関の方々に、関西館にお集まりいただき、けいはんな学研都市の魅力や、国立国会図書館に期待することについて、関西館長が伺いました。

座談会出席者

- 瀬渡 比呂志 関西文化学術研究都市推進機構 常務理事*
- 木俵 豊 情報通信研究機構(NICT)ユニバーサルコミュニケーション研究所長
- 澤村 健一 イーセップ株式会社 社長

（聞き手 片山 信子 国立国会図書館 関西館長）

(* 2017年6月14日時点)



けいはんな学研都市

大阪府、京都府、奈良県にまたがる京阪奈丘陵に建設されている広域都市です。1987（昭和62）年に関西文化学術研究都市建設促進法が制定されてから、今年で30周年を迎えました。



国立国会図書館
関西館

けいはんなの過去 — 地の果て!?

— まずは、けいはんなの過去ということ
で、関西文化学術研究都市推進機構の瀬渡
さんから、けいはんなの開発をめぐって印
象に残った思い出があれば教えていただき
たいのですが。

瀬渡 私はもともと街づくりに関わ
りたいと思って、当時の宅地開発公
団（現UR都市機構）に入り、主に
ニュータウン建設に携わってきまし
た。家もこの近くにあるので、就職
後すぐの1980年代には、このあ
たりが動き出しそうだと見ていま
した。

けいはんな地区を担当しはじめた
1990年代の終わり頃には、将来、

日本全体の人口減少が予想される中
で新たなニュータウンは必要ないの
ではないか、という議論が始まって
しました。

— 議論の結果はどうなったんでしょうか。

瀬渡 学術研究都市という大きな
圏域の、住宅地だけじゃなく研究所
を含めた産業施策をどう進めるかと
いうことと、人口が減って行く時に
どこまで建設を進めるかという点が
大事だったんだと思います。特に自
分が推進機構に携わるようになって
からは、街を作るだけじゃなく、新
産業を作るってどういうことなの
か、その意味を考えるようになりま
した。木俣所長にお会いし、澤村社
長にお会いし、いろいろ教えていた
だきながら、全然違う形でこの地域
を見れたな、と思っています。

— 木俣さんが所属する情報通信研究機構
（NICT）は、けいはんなへの進出が結
構早い方ですよ。

木俣 私は元々民間企業の研究所で
システム開発等をしていたのです
が、研究がしたくて2001年にC
RL（通信総合研究所・現NICT）
に入りました。ちょうどそのころ、
CRLがけいはんな地区に研究所を
作って、神戸の研究所と小金井の研
究所を移して情報処理分野の研究を
始めつつありました。私が本格的に
こちらに移って来た2004年頃の
印象としては、すごく開放的だな、あ、
電柱がないんだ、空がすごく広いな
という印象が強くなりました。ただ、
その当時はどちらかと言うと寂れて
行く方向でした。駅前の居酒屋が潰
れるとか。2006〜7年くらいから、
ショッピングセンターなどの住環境
が開発されて、新しい企業の研究機関

東京は人が住む場所じゃないと思ってます（笑）



瀬渡 比呂志

関西文化学術研究都市推進機構
常務理事

「ここは地の果てかな」と思いました(笑)

が来て、そこからは右肩上がりに発展していった印象がありますね。

個人的にけいはんなを初めて意識

したのは、社会人学生として博士課程に通っていた1997年頃、ATRの研究員だった土佐先生の授業をとったら、「うちに来なさい」と言われて神戸からけいはんなのATRに行ったのですが、「ここは地の果てかな」と思いました(笑)。「こういうところに来ることは二度とないよね」と思っていたのですが、結果

壮大な社会実験場

——開放的な感じを受けたというお話が印象に残ったのですが、研究開発するうえでけいはんな学研都市ならではの良さを感じることがありますか。

木俣 気持ち的にすごくリラックスできるという印象があります。ちょっと煮詰まったような時に、てくてこ散歩がてらけいはんな記念公

としてここでこんなに長く生活することになるとは思ってもみませんでした。

ちなみに2006年には内閣府に
出向したので、そう、まさに、国会図書館の本館にも、内閣府の図書館にもお世話になりました。「資料ありますか?」「ありますよ」で、行くとコピーが用意されていて、「なんと素晴らしい!」と感動しました。
——「支内閣府図書館」ですね。

園に行つてパソコンを開いたりした
こともあります。

——澤村さんはシリコンバレーにいらした
のじゃあね。

澤村 はい。関経連(関西経済連合会)で、イノベーションを活発にするために若手をシリコンバレーに派



木俣 豊
情報通信研究機構 (NICT)
ユニバーサルコミュニケーション研究所長

遣しようというプログラムがあつて、2012年に参加しました。最初は、所属していた日立造船の社内ベンチャーをやるうとしたんですが、先が不透明で、じゃあ、一人ベンチャーでやってみるので、フォローしてください、とけいはんなで2013年に起業しました。

けいはんな地区には、シリコンバレーとすごく似てるなというイメージを持ちました。気持ちよく研究ができる。車がないと不便だとは思いますが、車があれば全く気にはなりませんね。

木俣 中に入って落ち着いて研究するという意味ではすごくいいと思います。住居費などの生活コストも安いですしね。東京での生活に比べる

と、通勤も比較的楽で、同じ費用で広い住居に住んで、ゆつたりと生活しながら仕事ができるメリットは大きいと思います。

ただ、外部から出向で来てもらうとなると移動のしやすさで東京の方がいいと言われることがあります。また、京大や阪大に行つて仕事するにも時間がかかる。どこからも遠いという人もいます。交通の便が良くないのが残念です。

——私は京都出身で18歳から東京にいたのですが、東京に比べればここはやっぱり不便だと思います。でも、海外の学術研究都市を見渡したときに、世界標準は東京なのか、けいはんななのか、一体どつちなんだろうと思うようになりました。

木俵 自動運転の開発も、このあたりは道も広いし交通量もそんなに多くないのでやりやすいはずです。駅前に止まっている車に乗って「どこそこ」って目的地を言うと「ワカリマシタ」と言っただけと走って

いってくれるような実験をやるかかと思っっています。そんな実験は東京なんかでは難しいでしょう。そういうことを考えると、けいはんな地区というのは日本中見ても、なかなかほかにはない先進的な取り組みのできる特徴のある場所かもしれないな、と最近よく思っています。

瀬渡 けいはんな学研都市そのものが、ものすごく壮大な社会実験やろなあと思っっているんです。30年前、関西では珍しく産官学全体が集まる

機運が生まれたんですね。産業界としても必然性があつたんだろうと思うんです。高度成長でそれなりにお金を稼いできたし、基礎研究からやらないと次の時代を作れない、「じゃあ、象徴的に一か所で頑張っ

て作ろうぜ」と。当時ここに来た人の誰もが、「自然があるのはよわかるけど、不便や不便や」と言っていた。今では交通の便もよくなってきましたが、ここまで来たのは、けいはんなをつぶさないよう頑張ろうという意欲がね、産官学それぞれの立場の人、いろいろな局面であつたと思うんです。

じゃあ同じものが続いているかというところじゃなくて。最近はまだに澤村さんみたいなベンチャーとか

オープンイノベーションが重要やとか、そういう時代に入ってきてますよね。ここだからこそ先進的な、

多様性

——仕事をするうえで、関西ならではの良さってありますか。

澤村 あるときは京都のノリだった。あるときは穏やかな奈良のノリだったり。地域地域に応じて特色を楽しめていますね。

——近い範囲の中で多様性を味わえるという点ですね。瀬渡さん、木俵さんは生粋の関西人ですから、いまさらな話ですが。

瀬渡 東京は人が住む場所じゃないと思っってます（笑）。東京ほど情報が集まる場所はないと言われますが、関西のいかせる良さはいっぱいあると思っっている。関西の良さをさらにいかしたいとつねづね思っっています。

壮大な社会実験、全部がチャレンジみたいなところがあるんじゃないかと思っます。

木俵 「ポケとツッコミ」かなあと（笑）。常識では考えられない事を言ってみたり（ポケ）、それはどうしてなのか（ツッコミ）というプロセスが関西ではとても自然です。関東に比べるとなにかガチガチな感じがするんですよ、価値観が。関西では、問題があつたときに意外な視点で解決できたり、というのがやりやすいかなあと感じています。「ポケとツッコミ」から来る考え方が、コミュニケーションとるうえでうまく行ってる気がしますね。

——こつちに来て多様性ということをすごく感じるんですよ。関西が発信力を持つことで日本全国、それぞれの多様性の良さを



澤村 健一
イーセップ株式会社社長

けいはんな地区には、シリコンバレーとすごく似てるなというイメージを持ちました

を発信できないかなあと思っています。

瀬渡 多様性ってすごく重要やなと思っ。今は、企業も大きなところから小さなところ、いろんなジャンルがあるし、住んでる人も増えた。それぞれの良さをいかすためには、情報を共有すること、網の目状のネットワークができるようにすることが大事なあと。お互いがお互いの持つる情報をそれぞれ利用しあえる関係が作れるかどうか。そのときには推進機構のようなニュートラルなところが働きかけをすることが起爆剤になるやろなど。

——いろいろな企業が進出してきて多様性が生まれたことで、ほかの企業との連携によるメリットが増えてきている感じがします。

ベンチャー企業として

——澤村さんは起業をされています。場所をけいはんなに決めた理由は何でしたか？

瀬渡 あと、オープンイノベーションの仕組みをどうするか。みんなが集まるためのニュートラルな、情報管理、知財管理も含めた仕組みづくりにも関わらなければいけないだろうなと思っ。そういう取り組みも一生懸命やらせていただいた。その先鞭はけいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会。15年近くになりますかね。

木俣 オープンラボ研究推進協議会もともといろんな企業が連携をはかってオープンイノベーションを推進しようということ。NICTの中に入りました。いろんな企業さんが入っている部屋があっ。そこに今もベンチャーの会社が4社入ってます。

澤村 きっかけが関経連だったの。まず関西圏じゃないといけないという背景があったのが大きいので



片山 信子
国立国会図書館関西館長

すが、けいはんなには大阪・京都・奈良どこにも共通項があること。支援機関からの推薦も大きかったです。

ただ、実際やってみないとわからないことが多かった。支援者はたくさんいらつしゃったけど、実際アクションする人が、特に30代40代での起業が少なくて。

——現在は、けいはんなラボコミュニティで会長をされていますよね。起業のときに身につけたノウハウなんかを積極的にお教えしたりするのですか？

澤村 情報交換して共有してあります。ベンチャーでは1個のミスが死活問題になりかねないので、お互い様で。

——澤村さんの会社では、具体的には、どんなものを作ってるのでしょうか。

澤村 セラミックスの分離膜、フィルターを作っています。産業的には、物質を「分ける」ということだけで4割くらいものエネルギーを使ってしまうので、いかに効率化するかということが課題になっています。

瀬渡 分離膜ってなんのことか、僕も最初の頃全然わかってなかったんですけど、先端的でこれからの社会にすごく役立つ技術ですよ。

澤村 フィルターの性能が十倍百倍になると、小型化されて、最終的に

は車に乗るくらいのサイズになります。今はガソリンを燃やしてCO₂を出しているものを、ガソリンの排熱を利用して化学反応を起こし、発生した水素をその場で作ってそれで車を動かすとか、そういうことがで

ヘビーユーザーです ― 国立国会図書館の意義

― 研究のために関西館を利用してくださっていたら嬉しいです。

澤村 私、ヘビーユーザーですよ。研究開発しようとするときには、世界の動向が気になりますから、そのときに重要なのが論文なんですよね。大学にいたときは、学内で全部アクセスできたから全く気にならなかったんですけど、自力で見ようとする論文1本で30ドルくらいとられちゃうんですね。さすがにそれは困るので、いつも図書館に来て見ると。近くてよかったです。

― 澤村さんがけいはんなに進出するとき

きるんじゃないかな、と。ただ、いきなりそこだけ追究していくと収益が入らないので、産業の廃液処理とかそういう地道な事業も行っていきます。

に、国会図書館の存在はご存じでしたか？

澤村 知ってました。行ったことはなかったですが、論文は見れるなど安心して。電子ジャーナルで芋づる式に引用されている文献を見たり、はつきり言って国会図書館がないと研究にならないです。

木俣 私の研究所でもデジタルライブラリの契約はしてるんですけど足りないみたいで、研究員が「ちょっと国会図書館に行ってくださいわー」って、てこてこ歩いて利用させていたでいるようです。

電子ジャーナルのコストは高いんですよ。だから、主要なデジタル

ライブラリしか契約していません。国会図書館に行くところの論文がザーツと見れるというのは大きい。それ以外にも過去の紙のものが見たいときもある。けいはんな地区の知の集積点として国会図書館があるっていうのは心強いです。

― 瀬渡さんからはどうですか？

瀬渡 情報が集まっている、あるいは情報が発信できる、情報の拠点があるということは、地域にとって必須ですよ。住んでる人たちも関わって大学の先生なんかを講師に交えて一緒にやらしてもらおうような市民公開講座^②も、関西館があるからできるわけですよ。研究者にとっても重要だし、近隣の人たちもこの地域の価値を享受できる。相乗効果が生まれると思うんです。そういう意味では存在価値は大きいなと思います。

― 日本全国でも、たとえば県立図書館とか大学図書館とかが似た意義を持っていることを発見してもらい、モデルとして参考

にしてもええたらいいなと思っています。

木俣 以前から国会図書館さんに期待していることがあって。

― ぜひぜひ。

木俣 我々が気になってるのはデータなんですよね。いろんなデータをいかに組み合わせる研究に使うか。じゃ、そのデータはどこにあるのか。国会図書館さんが研究開発に使えるデータをアーカイブして、たとえばNICTで作った言語辞書等



の公開データを国会図書館さんにお預けして、そこで配布するということを担っていただけるといいな、と。

——オープンデータの流れのなかで、そういう期待はひしひしと感じます。身近なところで研究されている木俵さんからじかにうかがうと、私にもぐぐっと来ました。

木俵 この地域は比較的災害に強い

何かやりよる — けいはんなの未来

——それでは未来ということで、けいはんなに対する夢をお聞かせください。

澤村 最先端技術をここから発信しますという状態にしたい。「けいはんな発ですね」という技術ができたらいいなと思っています。

瀬渡 iPS細胞は奈良先端大³で研究されたんですよね。でも誰もけいはんな発とは言わないですよ。私はある意味、しょうがないと思っ

ていうこともあります。国の組織としてデータを集積する場合どこに担ってもらうかとなると、やっぱり国会図書館さんだよなあという感じなんですよね。

——図書館って開かれた組織ですから、預ける側も国会図書館ならオープンに使うも使えるという期待が出てくるのはよくわかります。

して実用化してきた、まさにけいはんな地区で生まれた技術です。

私自身の夢というのは、研究者をリクルートしたときに「けいはんなですか、いいですよ、生活も豊かになるし、研究も進むし、ぜひ行きますわ」と言ってもらえるような環境を作ることですね。東京に住んでいたら体験できない生活ができる、のびのび研究できる。外部の研究者からも「あそこで研究実績をつくって一皮むけて帰って来ます」と言われるようにしたいなと。

瀬渡 環境がいいとか、つながりもできるとか、広がれば広がるほど、この魅力とか活みとかネットワーク力が出てくるといいよね。

木俵 人工知能技術もずっとこの十年間やってきて面白いものができつつあります。システムをつくれれば、ネットワークを介して、いかしてもらえるようになってきたかな、と。

——NICITさんが次々と成果を生み出せた決め手というのはどこにあるんですか？

木俵 ある意味長い蓄積なんですよね。この環境のなかでじっくりと基礎研究から十年かけられる、そういう環境があった。今は、NICIT内でも「けいはんなは何かやりよる」という期待があり、結構とんがった存在になっていると自負しています。ここにしかない技術、ここにしかないデータがある、ここでしかできない研究があるんだということを広めたいです。

——今のお話は澤村さんがおっしゃった夢とオーバーラップするものですね。



国会図書館はこれからどうする？

——最後に、何か言い残したことはありませんか？

木俣 関西人は特に新しもん好きなんですよね。国会図書館さん次はどんな新しいことにトライされるのかなあと。

——関西館では、東京でやらないようなことでもやってみる。それがひょっとしたら国会図書館全体にとつての、それこそ実験場になるかなと思ってる部分があるんです。どのような情報ニーズがあるのかを聞かせていただくのもそのひとつです。先日は、柿波研究会とジョイントで講演会をやったんです⁴。普段だったら国会図書館なんて全然知らなかったような人が来てくれて、国会図書館ってこういう情報を共有する場を生み出そうとしているんだなということが伝わる機会になりました。あとは、高校生がもっと図書館を使うという観点で、高校生に対して使い方の提案をやっていきます⁵。

澤村 もし自分が関西館の職員だっ

たらやりたいことなんですけれど。私はよく中高生とかのポスター発表⁶を見に、けいはんなプラザ⁷に行くんですよ。中高生が頑張ってる発表してるんですけど、過去のデータが蓄積されていないんですよ。せっかくだからどんどん蓄積していったら、「こういう風に図書館で調べたらいいんだ！」とか、活用して学習できる仕組みになるんじゃないかな、と思います。

——私、その発表を見に行ったことがあります。すごく優秀ですね。1日だけのプレゼンなので、もったいないなあと思って。発表したものをたとえば関西館のどこかの部屋にせめて1ヶ月くらい貼り出してあげられたら、と思います。

澤村 さらに、ここに来れない方もコメントができる形になれば、どこかのえらい先生が一言残してくれた

りして、学生の立場としてはそういうことが大きなモチベーションになると思うんですよね。

木俣 私の大学生の息子は国会図書館の大ファンなんです。18歳の頃初

の全てが驚きだったようです。でも最初は国会図書館という名前がかたいので「こんなところ入っていいのかな？」と思っていました。もっと敷居を下げられて、この地域の通りの中心の施設として、いろんな人がふらっと立ち寄れるようにしていただけるとすごくいいなと思います。

——今日はいろいろなアイデアをいただき、本当にどうもありがとうございました。



めてここに来て、帰ってから「すごいわ〜」と言っていて。すごくグサツと刺さったようですよ、この施設が。見た感じ、かっこいいですし、内部の設備や保有している本の数等

- (1) 株式会社国際電気通信基礎技術研究所。関西館のすぐ隣に位置している。1986年創立。
- (2) 関西文化学術研究都市推進機構、国立国会図書館及び関西文化学術研究都市に立地する大学等が協力し開催している市民公開講座。2012年から関西館が会場となっている。
- (3) 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学。ノーベル賞を受賞した山中伸弥京都大学iPS細胞研究所長は、ここでiPS細胞を発見した。
- (4) 本誌2017年2月号「関西館で柿波のイベント!? 柿波の魅力と課題、そして情報基盤を考える」参照。
- (5) 国立国会図書館の利用は原則18歳以上。
- (6) まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル。
- (7) ホールホテル等を備えた交流施設。

関西館

A to Z

国立国会図書館は、東京本館、関西館、国際子ども図書館の3施設が一体となってその役割を果たしています。

それだけに、関西館では特に何をやっているのかについては、あまり知られていないのかもしれませんが。実は関西館だけでも、多くの重要な事業を行っています。

そこで今回は、関西館が取り組んでいる基本的なサービスから最新のプロジェクトまで、また、関西館を象徴するキーワードを、AからZまでピックアップして、駆け足で紹介します！

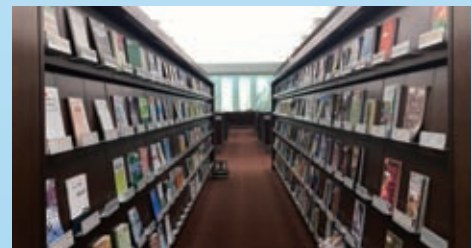


A アジア情報室

関西館の閲覧室のうち、西側約3分の1が「アジア情報室」です。中国、韓国から中東・北アフリカまで56もの国、地域に関する資料をご利用いただけます。

各国の新聞は、190タイトルを並べています。大きな事件があった直後に見ると、言葉が分からなくても臨場感が伝わります。開架資料と書庫資料を合わせると図書約47万冊、雑誌・新聞約9,000タイトルを所蔵し、国内有数の規模です。

アジア経済研究所と共催する研修など（p.33参照）、他の機関との連携にも力を入れています。



C

ツイッターアカウント
@ca_tweet
でも発信しています



カレントアウェアネス・ポータル

図書館に関する最新の情報をほぼ毎日発信しているポータルサイトです。

専門的、学術的な内容が多い中、国内外の図書館のユニークな催し物を紹介する記事も人気を集めています。過去には、図書館で「ぬいぐるみのお泊まり会」をするアメリカの事例を紹介した記事が多くの方の目に留まり、日本でも各地で同様のイベントが開催されるきっかけにもなりました。また、くずし字学習のためのアプリや、人工知能がSNSの投稿内容を分析して図書を紹介するサービスを取り上げた記事なども注目されました。

<http://current.ndl.go.jp/>

B

文化庁長官裁定

インターネットでたくさんの資料が公開されている「国立国会図書館デジタルコレクション」▶D。図書35万点のうち、実に7万4,000点が、この文化庁長官裁定のおかげで、インターネットから誰でも自由に見られるようになっています。

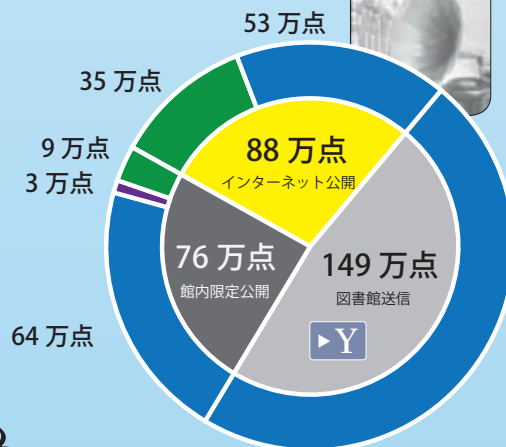
この制度は、著作権者がわからない、連絡がつかない、といった理由で著作権者から利用の許諾を得ることができない著作物について、国が著作権者に代わって許諾を行うものです。関西館では、「手を尽くして調べたのですが判明しませんでした」と調査結果を添えて、文化庁に裁定を申請しています。

D

デジタルコレクション

「国立国会図書館デジタルコレクション」では、図書や雑誌、貴重書のほか、博士論文▶Hや官報など、いろいろな資料を見ることができます。紙資料をデジタル化したもの以外にも、最初からデジタル形態で提供されている電子書籍など▶Eや電子版博士論文もこのコレクションで見ることができますし、デジタル化された録音・映像資料も提供を始めています。関西館では、資料のデジタル化から、著作権の処理▶B、保存技術の調査まで、さまざまな角度からデジタルコレクションを支えています。

国立国会図書館デジタル
コレクション資料うちわけ
(平成29年6月現在)



合計
313万点

デジタル化資料

266万点

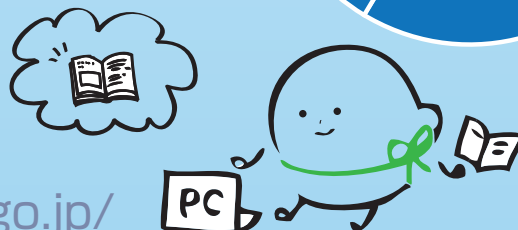
電子書籍・電子雑誌

44万点

電子版博士論文

3万点

※うち約1,000点はインターネット公開



<http://dl.ndl.go.jp/>

E

e デポ (オンライン資料 収集制度)

「国会図書館は電子書籍も集めているのですか？」という質問は、近年、最もよく尋ねられるもののひとつです。

その答えは「YES!」。2013年7月から始まったオンライン資料収集制度（eデポ）により、電子書籍・電子雑誌などを出版した私人の方は、国立国会図書館への納入が義務付けられています。ただし当面の間は、無償かつDRM（著作権保護のため複製や再利用等を制限する技術）のないものに限定して収集しており、関西館でその収集業務を行っています。一方、有償の電子書籍などについては、その収集・提供の実証実験中です。ちなみに「eデポ」は現代用語辞典「imidas」にも収録されていますよ。



F 施設 (Facility)



関西文化学術研究都市の中にある建物の中で、遠くからでも人目を引く関西館。施設としては、二つの大きな特徴があります。

一つ目の特徴は、地上から見える建物部分は全体のごく一部で、全体の約8割にあたる部分（閲覧室や書庫など）が地下に埋もれている、いわば「冰山型」の建物であることです。

二つ目の特徴は、高さ約1.5m×幅約3.75mの「ガラスカーテンウォール」と言われるガラスパネルで構成されている外壁です。内側と外側で異なる模様を持つ二重（一組）のガラスパネルで、温度や自然光をやわらげる役目を果たしています。このガラスカーテンウォールは、約2,000組使用されており、まるで建物がガラスケースに入っているかのような印象を与えます。



中村修二氏の博士論文

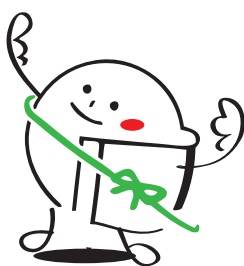


H 博士論文

関西館では、国内で授与された約59万人分の博士論文を所蔵するほか、デジタル形態で集めた約3万点(2013年度以降)と、当館が電子化した約14万点(1991~2000年度)を「国立国会図書館デジタルコレクション」[▶D](#)に収録しており、インターネットで見られるものもあります。

G 学術文献録音図書

視覚に障害がある方などのために本を朗読して録音したものを、「録音図書」といいます。かつては磁気テープでしたが、今ではデジタルになりました(DAISY図書といえます)。関西館では、医学書や歴史書などの学術文献の録音図書を作っています。専門用語や、数式をどう読むかなど、工夫しながらの作業です。また、他の図書館などが製作した録音図書データなどを集めて、インターネットで送信するサービスも実施しています。



I ILL

あまり馴染みのない言葉かもしれませんが、Inter Library Loan(図書館間相互貸借)の略で、図書館同士のネットワークを使って、相互に資料を貸し借りする図書館協力[▶I](#)の仕組みです。

読者のみなさんからすると、「国立国会図書館の書籍をあなたの地元の図書館に取り寄せて閲覧できる(かも)」ということです。サービスの利用方法は、お近くの図書館に問い合わせてください(送料などの手数料がかかる場合があります)。

関西館では、ILLの実務として図書館への資料貸出しやコピー提供を行うだけでなく、図書館の参加審査なども行っています。また、図書館同士がお互いの蔵書を確認できるよう、総合目録の整備も行っています。

J

雑誌 (Journal)



National geographic 創刊号(1888年)

電子ジャーナル化が進んでいる昨今ですが、紙媒体でしか発行されていない洋雑誌もまだまだ多数あります。そのような中、関西館の洋雑誌は約4万5,000タイトル(平成29年3月現在)あり、日本最大級のコレクションです。

利用、所蔵数ともに、科学技術関連の学術雑誌が主ですが、National geographic、Lifeといったメジャーな雑誌も所蔵しています。明治時代に日本の世相を漫画に描いたフランス人ジョルジュ・ビゴアのTôbaéなど、貴重な雑誌も。

K けいはんな学研都市

関西館の位置する、京都・大阪・奈良の3府県にまたがる文化学術研究都市で、「京」「阪」「奈」から命名されました(p.6参照)。なお、関西館の総合閲覧室内には、けいはんな学研都市の歴史、立地施設の概要、研究動向などについて調べられる「けいはんな学研都市コーナー」を設けています。

M

ミニガイドンス

ミニガイドンスは、初めて利用する方を対象とした利用説明会です。検索の仕方など、関西館の基本的な使い方を約30分で紹介します。9月は9、14、22、30日に開催予定です。

普段は入れない書庫 **▶S** の中もご案内する、ガイドツアーも開催しています。こちらは、金曜日と第四土曜日の13:10からです。どちらも予約はいりません。お気軽にご参加ください。

L

図書館協力 (Library Cooperation)

図書館協力とは、国内、外国のいろいろな図書館と協力しあうことです。関西館では、ILL **▶I** の窓口のほか、図書館員を対象とした研修も多数実施しています。また、全国の図書館での調べもの相談情報を共有する「レファレンス協同データベース」や、国立国会図書館と都道府県/政令市立図書館の所蔵資料を一度に検索できる総合目録を作成するなど、情報基盤の縁の下の力持ちでもあります。



れはっち

レファレンス協同データベースの
イメージキャラクター



N

のこぎり 屋根



エントランスに向かう通路の両側に広がっている、のこぎりのようにギザギザした起伏の芝生は、閲覧室の屋根にあたります。建築に詳しい方なら、明治期以降、紡績工場に多く採用された「のこぎり屋根」を思い出すでしょうか。

のこぎりの長い辺には、天然のコウライ芝が植えられており、広大な緑化スペースを確保。断熱効果も高く、CO₂の削減にも貢献しています。短い辺はガラス窓で、閲覧室へ自然光を取り込んでいます。閲覧室が明るく開放的で、地下にいることを感じさせない快適な空間となっているのは、この屋根のおかげなのです。

O 関西館見学デー (Open House)

11月19日開催
どなたでも
入れます!



毎年11月、精華町の「せいか祭り」に合わせ、「関西館見学デー」を開催しています。年齢を問わずどなたでも閲覧室に入ることができます。貴重な資料の展示会やフロアレクチャー、歴史的音源▶Rを聴くことのできるコーナー、クイズラリーなど、毎年、大勢の家族連れの方などで賑わう、まさに「お祭り」です。今年は11月19日開催です。近隣のけいはんな記念公園などでも多くのイベントが開催されます。ぜひ精華町に足を運んでみてください。

Q 総合案内 (Question)



総合閲覧室中央のカウンターは、隣接するアジア情報案内とともに、来館利用者に対するレファレンスサービスの窓口です。

資料の所蔵確認から、「〇〇寺の阿弥陀如来像について説明している本はないか」、「くまのプーさんの誕生日を教えてください」といった質問にいたるまで、さまざまな問い合わせに対応しています。どうぞ、気軽に質問してみてください。

P 建築賞 (Prize)

関西館の建物のデザインは、国際コンペで選ばれました。応募作品493点。最優秀作品に選ばれたのは、陶器二三雄氏の作品です。2004年日本建築学会賞作品部門、第20回日本図書館協会建築賞(2004年)、第45回BCS賞(2004年、日本建築業連合会)、第5回JIA環境建築賞一般建築部門優秀作品(2004年度、日本建築家協会)、2004年グッドデザイン賞建築・環境デザイン部門など、数々の賞を受賞しています。



建築賞のトロフィー等

R

れきおん (歴史的音源)

近年、レコードが見直されつつあるようですが、20世紀前半に製造されたSPレコードはご存じでしょうか。れきおんは、世の中から次第に失われつつあるSPレコードから、大衆歌謡、わらべうた、邦楽、寄席、演説、クラシックやオペラといったバラエティーに富んだ音源をデジタル化したものです。インターネット上では2,000件以上の音源を、れきおんの配信参加館では約5万件の音源を聴けます。まさに音のタイムカプセル。1936年ベルリンオリンピックでの伝説的なアナウンス「前畑がんばれ」もありますよ。その道のプロによる「テーマ別音源紹介」も是非ご覧ください。

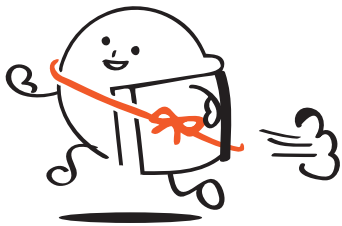
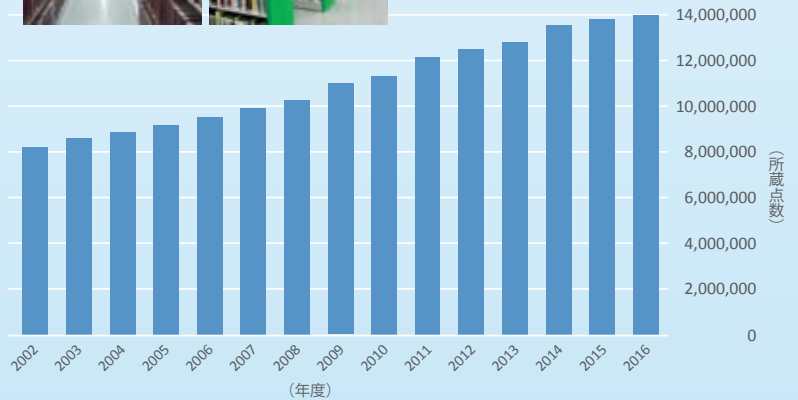
<http://rekion.dl.ndl.go.jp/>



S 書庫

関西館の閲覧室の真下、地下2階から地下4階には書庫があります。

15年前は半分以上空いていた書庫も、いっばいに。開館当時と比べて、2倍近い蔵書数となっています。むかし足を運んだときには、本が少ない印象だった方も、また是非足を運んでみてください。書庫には、ガイドツアーなどで入ることができます ▶M。



U ユニバーサル・アクセス 2020

国立国会図書館の新しい中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス2020」をご存じでしょうか。国立国会図書館には、過去から受け継がれてきた国内外の資料や情報に、現在だけでなく将来にわたって誰でもアクセスできるようにするという重要な役割があります。

関西館では、デジタル化した資料をインターネットを通じて、いつでも、どこからでも利用できるようにする電子図書館サービスや、来館しなくても資料や情報が入手できる遠隔複写などのサービス、障害のある方へのサービスなどにも取り組み、ユニバーサル・アクセスを支えています。

T 展示

関西館では、11月17日から12月9日まで「挿絵の世界」を開催します (p.28参照)。

こうした大きな企画展示のほかにも、ノーベル賞受賞者の博士論文 ▶H から、ビジネススキルアップに役立つ本、明治、大正時代の本まで、随時さまざまな展示を行っています。関西館が所蔵する、珍しい資料に出会えますように！

平成29年度企画展示
挿絵の世界



11月17日
～
12月9日
開催



V 眺め (View)

閲覧室に面した中庭は、この付近のかつての雑木林をイメージして造られました。コナラやクヌギなど100本以上の高木が植えられていて、閲覧室やロビーから緑豊かな景色を楽しむことができます。地下にいるとは思えない、まるで林の中にいるような感覚になります。



X からはじまる 請求記号

NDL-OPACで資料を検索すると、閲覧や複写の申込みをする所蔵詳細画面に、東京本館の所蔵資料とは違う「ローカル請求記号」が表示されるものがあります。関西館では書庫に保管している図書を大きさによって分類し、「X」から始まる請求記号を付けています。例えば、B5版の和図書は「XB-」、小型本の洋図書は「XG-」から始まる請求記号を付けています。同じような大きさの資料をまとめることによって、書庫内の無駄をできるだけ減らし、効率よく収めるように工夫しています。

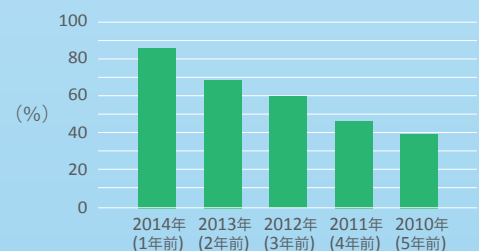


W WARP (インターネット 資料収集保存事業)

日々更新され、消えていってしまうウェブサイト。WARPはそれらを保存する事業です。「国の機関のサイトでは5年前に存在したURLのうち60%が無くなっている」と聞けば、その重要性を感じていただけるのではないのでしょうか。

開始から15年。収集回数は12万回を超え、容量は1ペタバイトにも上ります。合併してなくなった××町のサイトや、オリジナルサイトから既に消えてしまった〇〇省の資料も、WARPでなら、見つかるかもしれません。皆さんも過去のウェブ世界へ、WARPしてみませんか？

国の機関サイトのURL 残存率
(2015年国立国会図書館調査)



<http://warp.da.ndl.go.jp/>

Y 読めます！ 200万点

国立国会図書館で所蔵している資料を、お近くの図書館で利用できるかもしれないことをご存じですか!?

国立国会図書館は、「国立国会図書館デジタルコレクション」▶Dで提供しているデジタル化資料のうち、約149万点を全国の図書館などのパソコンで見たりコピーしたりできる「図書館向けデジタル化資料送信サービス（図書館送信）」を提供しています。現在、820館以上の公共図書館、大学図書館などで利用できます。このほか、インターネットを通じて自宅のパソコンなどでも利用できる資料が約53万点ありますので、図書館送信に参加している図書館では、合わせて約200万点の国立国会図書館の蔵書を利用できるのです。

200万点ということは、1日100点読んでも55年……。ぜひ、お近くの図書館に問い合わせてみてください。



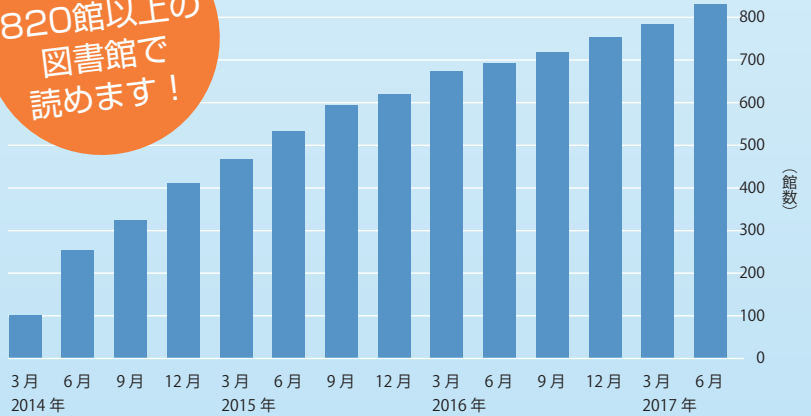
図書館送信のポスター



図書館送信で利用できる資料（一例）

日本全国
820館以上の
図書館で
読めます!

図書館送信に参加する図書館数

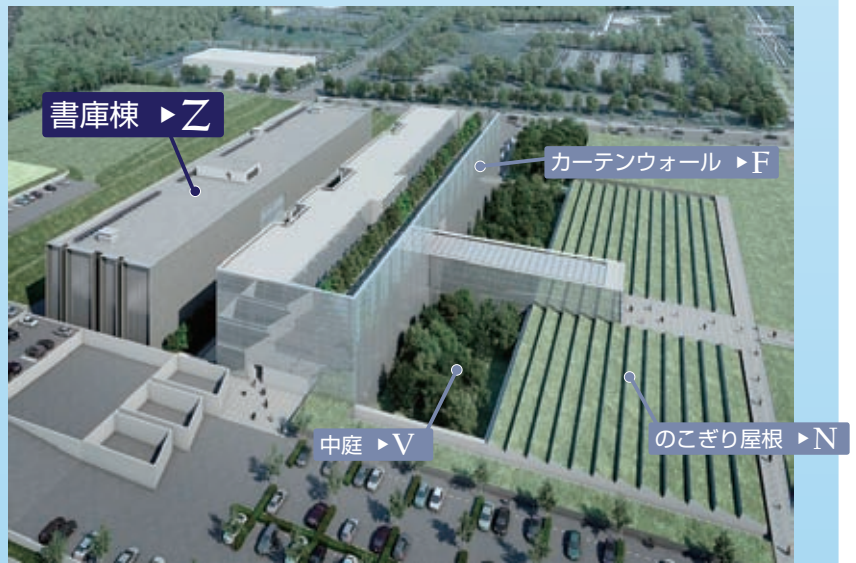


関西館に最近いらした方なら、建物の後ろ側（南側）で工事が進んでいることに気付いたかもしれません。新しい書庫を建設するための工事です。

国立国会図書館には、国内で刊行された出版物を収集し、永く保存するという重要な役割があります。現在、東京本館の書庫の収蔵能力は約1,200万冊、関西館の書庫の収蔵能力は約600万冊ですが、資料は日々増え続け、数年後にはいっぱいになることが予想されています▶S。

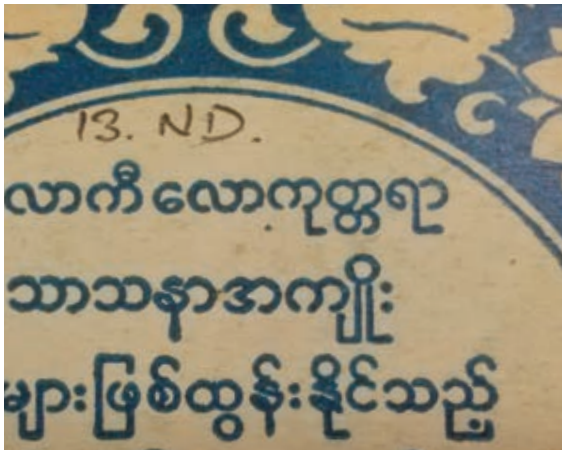
そこで、新たに地上6階、地下1階の書庫棟を建設することになりました。収蔵能力は約500万冊。平成31年度に完成予定です。

新しい関西館にもどうぞご期待ください!



第二期工事竣工イメージ図

Z 増築（第二期工事）



「下！」
「右、と左？」
「上、かなあ…。」

視力検査だと思われましたか？ 実は、ビルマ文字で書かれた資料のタイトルを、読み解こうとしているところです。まるっとした形が特徴のビルマ文字は、「○」のどこが切れているか（切れていないか）、「○」同士がどうくっついているか（別の単語になってしまおうという曲者です。見ているだけで目がクルクルしてきます）。

ビルマ文字の来歴について簡単に紹介しましょう。この文字が作られたのは12世紀初頭（ぼいち）ころ、当初は角ばった形だったようです。それが、貝葉（ばいよう）という筆記材料に記されるようになり、形に変化が起こります。貝葉は、ヤシの葉を横向きに切りそろえて作られます。尖った筆で、葉に傷をつけるように文字を刻むため、まっすぐな横線を引くと、葉が裂けてしまいます。それを避けるため、次第に丸みを帯びるようになったのです。

このビルマ文字、最近までNDL・OPACでの表示ができず、タイトル等を翻訳した（ローマ字に置き換えた）一部のものだけが検索対象となっていました。閲覧は、知る人ぞ知る昔ながらのカード目録が頼り。1800冊にも及ぶビルマ文字資料たちが、多くの方との出会いを、書庫の中で待

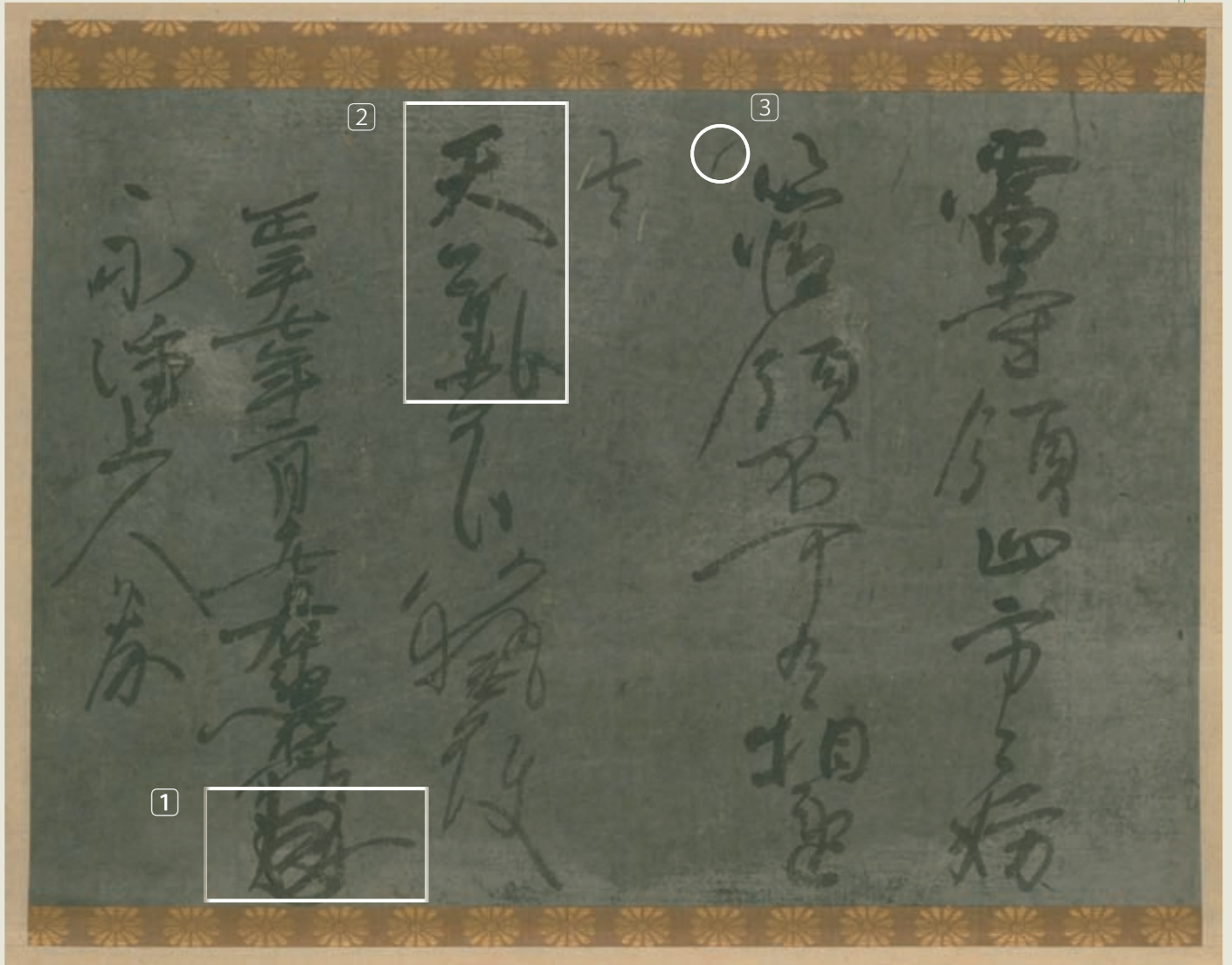
ちわびていたのです。平成27年1月、NDL・OPACデビューのその日を迎えるまでは…。

現在、関西館アジア情報課では、これらの資料がビルマ文字・翻字双方で検索できるよう、引き続き入力作業を行っています。とはいえ、この係にはビルマ語ができる職員はいません。入力を始めるにあたって、ビルマ語の専門家に非常勤職員として来ていただく一方、点検ができるように自分たちも語学研修を受けました。

さて、準備万端（？）、いよいよ取り掛か…!? 「フォントが小さくて読み取れない！」（幅2〜3mmの中に「○」が2〜3個…。） 「インクがにじんで、切れ目が判別できない！」（古い資料に多く見られます。）

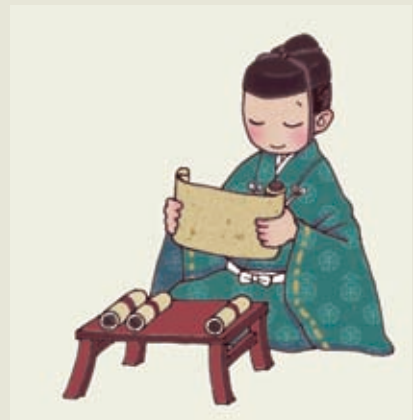
思わず、資料を持ち上げて透かしてみたくりますが、古顔の中には20世紀前半に世に出た老体も。思わぬけがをさせぬよう、我慢、我慢。NDL・OPACで無事検索できたときの達成感に思いをはせながら、目をこらし、あるいは目を細め、今日も視力の限界に挑戦中です。

（関西館アジア情報課 視力は矯正0.4）



真っ黒な紙は「天皇文書」の
トレードマーク！？

きのした りょうま
木下 龍馬



「資料の世界の歩き方」は、国立国会図書館（NDL）の所蔵する資料のうち、少し難しそうな資料を取り上げて、その「よみかた」に触れる連載です。



正平 7 年（1352）2 月 17 日付後村上天皇綸旨
（国立国会図書館所蔵「正平七年綸旨」）
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2540711/4>

翻刻
当寺領止方々妨
管領不可有相違
者
天氣如此、仍執啓如件
正平七年二月十七日 右衛門権佐（葉室光資）
（後醍醐宗浄三鈇寺住持）示浄上人御房
読み下し
当寺領方々の妨を止め、
管領相違あるべからず。
てえれば、
天氣かくの如し、仍て執啓件の如し。
（年月日、差出、宛所略）

現代語訳
「三鈇寺の所領への妨害は禁止する。問題なく領有すべし」というのが、天皇のお気持ちである。よってこのようにお伝えする。
（年月日、差出、宛所略）



「なんじゃこりゃー！ 紙が真つ黒！」
——本文書を見た方は驚いたかもしれ
ません。この文書は決して薄汚れてい
るわけではありません。当時のひとたち
にとって、この紙の黒さがとても大切
だったので。
はじめに、本文書の内容と様式をお
さえておきましょう。本文書は、南北
朝時代の正平七年（一三五二）に、南
朝の天皇である後村上天皇が京都の三
鈇寺という寺の所領を安堵（保証）し
たものです。ところが、発給者である
天皇の名前は、文書の中にはあらわれ
ません。代わりに、葉室光資（右衛門
権佐）という貴族が、年月日の下に署
名し花押を書いています①。実は
この葉室光資は、後村上天皇の側近で
あり、天皇の意思によってこの文書を
書いているのです。中世においては、
身分の高い人物は直接書状を書かず、
近臣の名で意思を伝える奉書（ほうしょ）という文
書を用いることが多々ありました。本
文書が天皇の意を奉（うけなまわ）っていること
は、四行目の冒頭に「天氣」（天皇の
お気持ち）の意②とあることか
ら分かります。わざわざ改行して「天
氣」の字を行頭に持ってきているの

宿紙のできるまで

※イメージ図（現代の研究者らによる製紙工程の再現等を参考にしています）



廃棄された使用済みの紙を煮てやわらかくします。



ドロドロになった繊維のカタマリをほぐして水に入れ、すのこで漉きます。



漉いた紙を乾かしたら宿紙のできあがり！



は、天皇への敬意を示す一般的な作法です。本文書のように天皇の意を受けた奉書を、りんじ綸旨と呼びます。

そして、天皇の意思を伝える文書であることは、紙が黒いことと深い関係があるのです。たいていの綸旨は、しゆくし宿紙という、朝廷の役所で作られ、蔵人（天皇の側近）が使う特殊な用紙に書かれます。宿紙とは、使用済みの和紙をドロドロに溶かしてもう一度漉き返した、一種のリサイクル紙です。(※)

昔は紙の原料は貴重だったので、再生紙は重宝されたのです。元の紙の墨が溶けだして黒味を帯びることが大きな特徴です。そのうち、用紙が黒いことが、天皇の文書としてのトレードマークとなり、黒みがよく出るようあえて加工されるようになりました。黒ければ黒いほど、ありがたみが増したのでしょう。

本文書を書いている葉室光資は南朝の蔵人であり、これは宿紙に違いありません。じっくりと観察すればさまざまに証拠がみつかります。③の部分は筆で書かれた線ではなく、元の紙の真っ黒な繊維が残ったものです。印刷ではわかりませんが、左端にも大きな



本文書と政局—南朝の綸旨—

本文書が出された正平7年（1352）2月の政治情況は、南朝にとってのターニングポイントでした。

足利尊氏と対立した後醍醐天皇が吉野に逃れ南朝を開いたため、尊氏は別の天皇を擁立し、京都に北朝を建てます。本文書を出した後村上天皇は後醍醐天皇の皇子として南朝2代目の天皇に即位し、足利氏の室町幕府と抗戦し続けました。ところが、足利尊氏とその弟の直義が対立した（観応の擾乱）結果、尊氏方は南朝に降伏するという奇策を打ちます。北朝年号は廃され、北朝の天皇と皇太子も廃位されました。こうして一時的に南北朝が統一されたのを、「正平の一統」（1351年10月～1352年閏2月）と呼びます。

本文書はちょうど「正平の一統」の時期にあたるもので、この時期の南朝文書は大量に残されています。政権交代によって、南朝軍が京都に進駐してくると思った貴族や寺社が、あらそって所領や官位の保証を南朝に求めたからでしょう。本文書を南朝から得た三鈷寺も、そのひとつであったに違いありません。



（絵・正保しょうほ五月ごつき）

③の拡大図：

宿紙に交じる
黒い繊維がみえる



かたまりがあり、ほぐれていない原料の一部かと思われます。また、光の加減で、紙の表面に小さな雲母片のようなものがキラキラと輝くのが見えるので、元の紙が装飾経や豪華な書物だった可能性もあります。

本文書が出されたのは、南北朝の内乱のまっ最中です（コラム参照）。京都から離れた南朝がこのような黒みの強い宿紙を用いているのは、天皇としての正統性をアピールするためだったのかもしれませんが。北朝や他の時期の南朝文書に用いられた宿紙と比較することで、あらたな知見が得られる可能性があります。



次回で「中世の古文書を読んでみよう」はいつたんおしまい。中世と近世の境目にあたる、戦国大名の文書を紹介します。

（※）朝廷の役所で宿紙を作るようになったのは、平安時代に紙の原料が都に届かなくなったことと関係がある、とされています。

国立国会図書館平成29年度企画展示

挿絵の世界

国立国会図書館では、平成29年度企画展示として「挿絵の世界」を開催します。

挿絵は、小説や物語を支え、彩る存在として人々に親しまれ、新聞や雑誌といった新しいメディアの普及にも貢献してきました。印刷・表現技法の発達を受け、大衆文化の移り変わりともあいまって多様化してきた挿絵の世界を、明治の新聞、大正・昭和の少年・少女雑誌、SF小説や時代小説、平成のライトノベルなど所蔵資料約90点をご紹介します。

入場無料

東京会場

国立国会図書館東京本館 新館 1階展示室

10/10 火 ▶ 11/11 土

10:00 ~ 19:00 (土曜日は 18:00 まで)

(日曜・祝日・第三水曜日は休館)

※一部の資料の展示替え、展示箇所替えを行います。

関西会場

国立国会図書館関西館 地下1階大会議室

11/17 金 ▶ 12/9 土

10:00 ~ 18:00

(日曜・祝日は休館。ただし11月19日(日)のみ 10:00 ~ 16:00 開催)

※東京会場のみ展示する資料(3点)があります。





3

- 1 『人魚の嘆き・魔術師』大正8(1919)年【331-133】(水島爾保布 画)
 - 2 『おせん 絵入草紙』昭和9(1934)年【656-66】(小村雪岱 画)
 - 3 『瀧東綺譚 小説』昭和12(1937)年【KH385-H5】(木村荘八 画)
 - 4 『読売新聞』明治35(1902)年5月11日 1面「續・金色夜叉」(三)の二【Z81-16】(梶田半古 画)
 - 5 『少女画報』15巻4号「學生小説かなし舞姫」大正15(1926)年【Z32-551】(高島華宵 画)
 - 6 『水野年方新聞小説挿絵 67』【201-271】(水野年方 画)
- 【 】内は当館請求記号

展示構成

第1部 挿絵の確立

—絵入新聞の流行から挿絵の地位確立まで

主なトピック：「水野年方の新聞小説挿絵」、「金色夜叉」と挿絵」ほか

第2部 挿絵の展開

—雑誌の普及と挿絵画家の活躍

主なトピック：「少女少女向け雑誌の挿絵」、「小村雪岱」ほか

第3部 挿絵の多様化

—表現と挿絵の担い手の多様化

主なトピック：「SFアートの勃興」、「イラストレーターの定着」ほか



4

関連講演会 事前申込制

詳細はホームページをご覧ください。
 「大正ロマン・昭和モダンの抒情画家—
 夢二・華宵・淳一を中心に」
 10月21日(土) 14:00~16:00
 講師 内田静枝氏(弥生美術館学芸員)
 会場 国立国会図書館東京本館 新館3
 階大会議室

ギャラリートーク

東京会場 **申込不要**
 10月14日(土)、25日(水)、11月4日(土)、
 8日(水) 各日14時から15分程度。
 関西会場
 11月19日(日) 1日6回開催、各回15
 分程度。

当館担当職員が本展示の裏話をお話します。
 ※展示会場受付にお越しください。



6



5

○問合せ先
 国立国会図書館 利用者サービス部 サービス企画課 展示企画係
 03-3506-5260 (直通) tenji-kikaku@ndl.go.jp
 NDL-HP → イベント・展示会情報 > 企画展示「挿絵の世界」

 Facebook
 「国立国会図書館の展示(東京・関西)」
<https://www.facebook.com/NDLExhibition>

本屋に

ない本



なぜなぜ? ことばあそび!! 江戸の判じ絵と練馬の地口絵

練馬区立石神井公園ふるさと文化館 編・刊
2016.1 168p 30cm
<請求記号 KC16-L1784>

判じ絵の例：
「尻」に「火」でへびと読ませる

地口絵の例：
白からでたマグロ
「嘘から出た誠」の駄洒落

いつかの帰宅途中、ある店先に掲げ

られた「春夏秋冬」という札が目にと
まった。春夏秋冬のうち秋がない、と
いうことで、「あきない(商い)中」
と読ませるものだ。このように、文字
や絵に、ある意味を隠し、考え当てさ
せるものを判じ物という。江戸時代に
判じ物が流行したということは仄聞し
ていたが、現代ではそうお目にかかれ
るものではないと思っていた。文化の
名残を目にして、思わず顔を綻ばせた
のを覚えている。

そうした折に、関西館総合閲覧室の
図録コーナーで見つけたのが本書であ
る。本書は、昨年、練馬区立石神井公
園ふるさと文化館で開催された展示会
「なぜなぜ? ことばあそび!! 江戸の

判じ絵と練馬の地口絵」の図録だ。

二部構成の第一部で判じ絵が、第二部
で地口絵が紹介されている。判じ絵は
その名のとおり、絵が主体となった判
じ物だ。一方、地口絵は、地口(諺など、
よく知られた言葉の一部分を別の音に
置き換えて楽しむ言語遊戯)を絵で表
現したものである。本書によれば、同
館が判じ絵の展示会を行うにあたり、
判じ絵と性格の似た地口絵を併せて展
示しよう、と企画したのだそうだ。練
馬では今なお地口絵が制作され、祭礼
用の行灯などで用いられているのだと
いう。

第一部で紹介される判じ絵は、その
大部分に答えが付けられており、実際
に判読に挑戦することができる。答え

を言い当てるのは容易ではないが、判

読を通して、当時の考え方や生活を身
近に感じることが可能だ。また、本書
の冒頭で示される判読のルールを理解
し、試行錯誤を繰り返すうちに、判読
のコツも掴めてくる。その過程で、一
口に判じ絵といっても、様々な種類の
ものがあることが分かるだろう。

第二部で紹介される地口絵は、平成
に入ってから制作されたものばかり
だ。それだけに彩色も鮮やかで、眺め
ているだけでも心躍る。煎餅をくわえ
た鶴で「つるはせんべい(鶴は千年)」、
血を舐める人物で「洗うよりなめる(習
うより慣れろ)」など、どの作品もた
だの駄洒落ばかりなのだが、その発想
力の豊かさに、悔しくも笑みがこぼれ

てしまう。

一読後、特に心に残った作品を紹介
したい。第一部で紹介されていた、歌
川国芳画の「はんじもの」だ。江戸後
期に発表されて以来、完全には判読さ
れていないのだという。ふとした折に
考えてみるも、全く分からない。百年
以上の時を超えて、挑戦状を叩き付け
られた気がした。

本書では、それぞれ百点以上の判じ
絵・地口絵が紹介されている。あなた
にとっても、意欲を掻き立てられる判
じ絵が、心の琴線に触れる地口絵が、
きっと見つかるだろう。

(山下真由子)

※練馬区立石神井公園ふるさと文化館内又は通販で購入できます(税込1200円)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。
このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

NDL Topics

システムリニューアルに関するお知らせ

臨時休館・臨時休室（12月19日）のお知らせ

平成30年1月に予定しているシステムの切替え準備のため、12月19日（火）に東京本館、関西館は臨時休館し、国際子ども図書館では、児童書研究資料室を臨時休室します。なお、12月20日（水）は資料整理休館日として休館いたします。詳しくは、当館ホームページに掲載している開館カレンダーでご確認ください。

利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いいたします。

国立国会図書館検索・申込オンラインサービス

平成30年1月から提供を開始する、国立国会図書館検索・申込オンラインサービス（略称 国立国会図書館オンライン）の機能、サービスを一部ご紹介します。

- ① 検索対象の拡大 当館所蔵資料の他、国立国会図書館デジタルコレクション、電子ジャーナル、リサーチナビの目次データベースの目次情報などが検索対象となります。

- ② ユーザビリティの向上 カート機能の導入、スマートフォン対応、英語版の申込画面の追加など、使いやすさの向上をはかります。

- ③ 手続きの改善 遠隔サービス向けの簡易な利用者登録や、パスワードを忘れた場合に再設定を可能とするなど、手続きの改善を行います。

詳細は、当館ホームページの「平成30年1月システムリニューアルのお知らせ」をご覧ください。当館作成の

書誌情報をダウンロードする国立国会図書館書誌提供サービスもあわせて紹介しています。これまで同様にMARC形式等のファイルをご利用いただけます。

資料のデジタル化に伴い原資料の利用を休止しています

国立国会図書館では資料の保存と利用の両立を図るため、デジタル化による媒体変換を行い、作業が終了した後は、原資料に代えてデジタル化資料を提供しています。

このデジタル化作業のため、一部の資料の利用を休止しています。

詳細については、国立国会図書館ホームページや館内掲示等でお知らせしています。

利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、国民の文化的資産である国立国会図書館の蔵書を、可能な限り長く保存し後世に伝えるため、ご理解とご協力をお願いいたします。

○利用を休止している資料

(1) 東京本館所蔵の国内刊行洋雑誌

約120タイトル 約4600冊

(2) 関西館所蔵の国内刊行洋雑誌

約190タイトル 約1650冊

(3) 東京本館所蔵の和図書 約650冊

・平成20年以降に整理された請求記号がY994で始まるもの
の一部

・戦後刊行された和図書（昭和43年以前に刊行されたもの）

のうち、請求記号（NDC分類）が338、366及び611で始まるもの一部

(4) 東京本館所蔵の和雑誌 約130タイトル 約3000冊

(5) 関西館所蔵の和雑誌 約60タイトル 約300冊

(6) 国際子ども図書館所蔵の和雑誌 約70タイトル 約300冊

○利用休止期間

平成30年3月末日まで（予定）

※ご利用の際は、NDL-OPAC（国立国会図書館蔵書検索・申込システム）で、ご希望の資料が利用可能かどうかを事前にご確認ください。



#3 関西館建設の様子

2000年3月（右上）、10月（右下）、
2001年2月（左上）



国際子ども図書館展示会

「日本の絵本の歩み―絵巻から現代の絵本まで」

国際子ども図書館では、ちひろ美術館（いわさきちひろ記念事業団）との共催で、展示会「日本の絵本の歩み―絵巻から現代の絵本まで」を開催します。

この展示会では、普段目にすることの少ない国立国会図書館所蔵の古典籍資料や国際子ども図書館所蔵の絵本・絵雑誌、ちひろ美術館所蔵の絵本の原画（複製）や資料を通して、日本の絵本の源流とされる絵巻から現代の絵本まで、日本の絵本の歩みをご紹介します。

○開催期間 11月1日（水）～11月30日（木）

※月曜日、11月3日（金）、11月15日（水）、11月23日（木）は休館

※11月16日（木）から一部展示資料が入れ替わります。

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館レンガ棟3階

本のミュージアム



竹取物語



付喪神記

△関連行事のご案内▽

木村八重子氏を講師にお迎えし、江戸の絵本〈草双紙〉についてご講演いただきます。

講演会「江戸の絵本〈草双紙〉の世界」

○日時 11月5日（日）14時～16時

○会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1

○講師 木村八重子氏（元金城学院大学教授・草双紙紙研究家）

○対象 中学生以上（定員100名）

○申込方法 往復はがきまたはインターネットのいずれかの方法でお申し込みください。

△インターネットによる申込▽

台東区ホームページ内の「上野の山文化ゾーン」講演会シリーズ」(http://www.city.taitoh.jp/index/bunka_kankou/for/kumi/uenonoyana/koenkai.htm)にアクセスし、専用のフォームからお申し込みください。

△往復はがきによる申込▽

はがきの「往信用裏面」と「返信用表面」に下記の必要事項をご記入の上、下記の宛先にお送りください。

「往信用裏面」の必要事項：

1. 郵便番号・住所・氏名（ふりがな）

2. 参加人数（1枚のはがきで2名まで。2名の場合はそれぞれ別の氏名を必ず明記してください。）

3. 電話番号

4. 「講演番号12」「江戸の絵本〈草双紙〉の世界」

「返信用表面」の必要事項：郵便番号・住所・氏名
宛先：〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6

台東区役所文化振興課「上野の山文化ゾーン」フェスティバル係

○締切 10月23日（月）必着

○問合せ先 国立国会図書館国際子ども図書館資料情報課

電話 03(3827)2053（代表）

第19回図書館総合展に参加します

11月7日（火）から11月9日（木）にパシフィコ横浜で開催される、図書館に関する国内最大の展示会「第19回図書館総合展」に、国立国会図書館も参加します。展示ブースでは、国立国会図書館の多様なサービスをプレゼンテーション等で紹介します。また、期間中に次のフォーラム（講演会）を開催します。ぜひご来場ください。

フォーラム「利用者から学ぶ超高齢社会の図書館」

日時：11月9日（木）10時～11時30分

会場：パシフィコ横浜アネックスホール（定員200名）

講師：小川敬之氏（九州保健福祉大学保健科学部教授）

呑海沙織氏（筑波大学図書館情報メディア系教授）

溝上智恵子氏（筑波大学図書館情報メディア研究科長教授）

○お申込みは、9月下旬から、国立国会図書館ホームページにて先着順で受け付けます。ホームページの「イベント・展示会情報」をご覧ください。

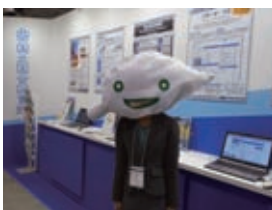
○問合せ先 国立国会図書館総務部総務課広報係

電話 03(3581)2331（代表）

第19回図書館総合展（主催：図書館総合展運営委員会）

期間 11月7日（火）～11月9日（木）10時～18時

会場 パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい1-1-1）



ブースには、今年もレファレンス協同データベースのマスコット「れはっち」が登場します。

平成29年度アジア情報研修

アジア情報の収集・提供に関するスキル向上を図るとともに、アジア情報関係機関間の連携を深めることを目的として、平成29年度アジア情報研修を行います。昨年度に引き続き、日本貿易振興機構（ジエトロ）アジア経済研究所と共催で実施します。

○日時 10月26日（木）～27日（金）
○会場 日本貿易振興機構アジア経済研究所
（千葉市美浜区若葉3-2-2）

○対象 各種図書館、調査研究・教育機関、中央省庁・地方公共団体に属する方、大学院生等。
*中国語の入力・読解ができない方も受講していただけます。

○定員 12名（原則、1機関につき1名。応募多数の場合は調整します）。

○テーマ 台湾情報の調べ方と諸制度と統計を中心に
○内容（予定）

10月26日（木）13時30分～17時30分
実習①「台湾の諸制度を調べる」（関西館アジア情報課）
アジア経済研究所図書館見学
*終了後、情報交換会（会費制、希望者のみ）を予定しています。

10月27日（金）9時30分～12時20分

実習②「台湾の統計を調べる」（アジア経済研究所図書館）
講演「台湾情報の入手方法」（アジア経済研究所）
*受講者の方には、事前課題にご回答いただきます。

○参加費 無料。ただし旅費・滞在費等は受講者にご負担いただきます。

○申込方法 電子メールまたはFAXでお申し込みください。タイトル・件名欄に「アジア情報研修申込み」と記載し、本文に次の事項を記載してください。①氏名（ふりがな）、②所属機関・所在地、③所属部署・職名、④電

話番号（日中のご連絡先）、⑤電子メールアドレス（またはFAX番号）、⑥情報交換会参加の有無、⑦中国語の知識の有無

* 申込受付後にお送りする確認メールが届かない場合は、左記までお電話ください。

* 申込多数の場合は、キャンセル待ちとして受付けます。

○ 申込期限 平成29年10月1日（日）。

* 参加の可否は、平成29年10月5日（木）までお知らせします。

○ 申込み・問合せ先

国立国会図書館関西館アジア情報課

電子メール nl-asia@ndl.go.jp

FAX 0774(94)9115

電話 0774(98)1371

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第272号

フランスにおける国の情報監視活動を規定する法律
ドイツ、オーストリア及びハンガリーにおける難民の
受入れ

2016年のイタリア共和国憲法の改正案

中国の公共文化サービス保障法



A4 171頁 季刊 1,800円（税別）
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-801-3

レファレンス 797号

「安定・成長協定」の現在

— EUの財政ガバナンスの枠組みをめぐって—
— マンシヨン老朽化への対応に向けた課題

我が国と欧米主要国の最低賃金制度

— 近年の動向と課題 —

中小企業の海外展開及び海外展開支援 — 愛媛県、
福井県及び石川県の事例から —（現地調査報告）



A4 62頁 月刊 1,000円（税別）
発売 日本図書館協会

レファレンス 798号

医療保護入院制度—その変遷と今後—
研究開発税制に関する論点

我が国における社会的養護の現状と課題

— 里親制度・特別養子縁組を中心に —

諸外国の課税単位と基礎的な人的控除

— 配偶者控除の見直しをめぐって —（資料）



A4 87頁 月刊 1,000円（税別）
発売 日本図書館協会

カレントアウェアネス 332号

- ・公共図書館における郵送・宅配サービスの動向
- ・学校図書館の情報交流紙『ばっちわーく』の24年
— 学校図書館研究の情報源としての意義 —
- ・レファレンス協同データベースの登録事例から垣間見る日本のレファレンスサービス
- ・国立国会図書館による博士論文収集の現況と課題
- ・動向レビュー
- ・デジタル教科書の導入と著作権制度
- ・学校図書館専門職関連施策の動向と課題
— 2014年法改正を中心に —
- ・研究助成機関によるオープンアクセス義務化への大学の対応 — 英国の事例 —



A4 32頁 季刊 400円 (税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)(0812)

平成29年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会

6月29日、国立国会図書館東京本館において標記懇談会を開催しました。国立国会図書館と公共図書館との協力の推進を図ることを目的とするこの会合は今年で53回目となり、都道府県立及び政令指定都市立図書館63館から72名が参加しました。

懇談会では、まず文部科学省から図書館行政の動向について報告があり、続いて、今年度の懇談会のテーマ「ビジョンとその展開」に関して、当館から国立国会図書館中期ビジョン「ユニバーサル・アクセス2020」と「国立国会図書館活動目標2017-2020」及びそれぞれに基づく利用者サービスの展開について報告を行いました。

公共図書館のビジョンについて、政令指定都市立の2館から報告がありました。波田野育男さいたま市立中央図書館副館長からは、「さいたま市図書館ビジョン実施計画」の策定に至る経緯、ビジョンの下に立てられた22の基本方針、平成28年度までの成果を踏まえた同計画の見直し等について報告されました。三保恵美子新潟市立中央図書館長からは、「新潟市立図書館ビジョン」の策定に至る背景及び経緯、ビジョンの4つの柱、評価指標及びビジョンのPDCAサイクルモデル、今後の課題等について報告されました。

報告後の質疑応答・懇談では、当館、さいたま市立中央図書館、新潟市立中央図書館の報告内容に関する質問が寄せられたほか、都道府県立図書館におけるビジョンの策定状況についてやりとりがありました。

また、東京本館の見学会を併せて行い、約50名が参加しました。

主な人事

平成29年7月1日付け

- 専門調査員 調査及び立法考査局国土交通調査室主任 (専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任)
- 須藤 晋
- 衆議院事務局 (専門調査員 調査及び立法考査局国土交通調査室主任)
- 山崎 治
- 専門調査員 調査及び立法考査局農林環境調査室主任 (専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付)
- 岩澤 聡
- 専門調査員 調査及び立法考査局総合調査室付 (主幹 調査及び立法考査局総合調査室付)
- 渡邊 幸秀
- 主幹 調査及び立法考査局総合調査室付 (主幹 調査及び立法考査局海外立法情報調査室付)
- 鈴木 滋



4 関西館と春の草花
photo by mizuho



9 / 10

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2017.9/10

NO.677 / 678

SEPTEMBER / OCTOBER
2017

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Tracing authenticity: Mukoyama Seisai's notebooks and Katsu Kaishu
- 04 15th Anniversary of the Kansai-kan
- 06 Discussing the past, present, and future of Keihanna Science City and the Kansai-kan
- 14 A to Z of the Kansai-kan
- 24 Browsing library materials—A look at documents from medieval Japan, Part 4
Was ebony-colored paper a trademark of imperial documents!?
- 28 National Diet Library Exhibition
“The World of Japanese Book Illustration”
- 23 <Tidbits of information on NDL>
“Down!” “Right, and left?” “Up…, I guess.”
- 30 <Books not commercially available>
Nazonazo? Kotoba asobi!! Edo no hanjia to nerima no jiguchie
- 31 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成 29 年 9/10 月号 (No.677/678)

平成 29 年 9 月 1 日発行

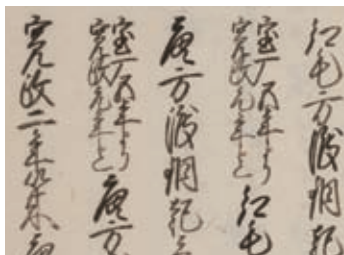
発行所 国立国会図書館

編集者 秋山勉

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
http://www.ndl.go.jp/

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2017.9/10

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

